

2025/26 年冬期北海道における大雪イベント直後の積雪断面観測結果

—札幌および北見・中札内の事例とその解析—

Snowpack Stratigraphy Following Major Snowfall Events during the 2025/26 Winter Season in Hokkaido, Japan — Case Studies from Sapporo, Kitami, and Nakasatsunai —

白川 龍生¹, 尾関 俊浩²

Tatsuo Shirakawa¹ and Toshihiro Ozeki²

Corresponding author: shirakaw@mail.kitami-it.ac.jp (T. Shirakawa)

¹ 北見工業大学, ² 北海道教育大学札幌校

¹ Kitami Institute of Technology, ² Hokkaido University of Education, Sapporo Campus

Although the 2025/26 winter season in Hokkaido, Japan, was generally characterized by below-normal snowfall, localized heavy snowfall events occurred in Kitami, Sapporo, and southern Tokachi. This study compares snowpack stratigraphy observed immediately after these events. In Kitami, mid-December snowfall produced the seasonal maximum snow depth, representing a very rare early-season heavy snowfall type. Nakasatsunai showed a similar accumulation pattern, with an additional temporary increase in early March. In contrast, Sapporo experienced event-type snow accumulation in late January, distinct from the 2021/22 winter season.

1. はじめに

2025/26 年冬期の北海道は、全般には少雪傾向で推移した。一方、北見などオホーツク海側¹⁾、札幌²⁾および十勝南部⁴⁾では局地的な大雪が発生し、地域によって異なる積雪形成過程がみられた。筆者らは、2025 年 12 月の北見、2026 年 1 月の札幌、2026 年 3 月の中札内において、大雪直後の積雪断面観測を実施した。これらは積雪初期、積雪中期および融雪期に発生した大雪事例であり、同一冬期における積雪構造や積雪形成過程の地域差を比較することができる貴重な観測事例となった。本稿では、各地の積雪断面観測結果を紹介するとともに、2025/26 年冬期の積雪形成過程の特徴について考察する。

2. 観測方法

積雪断面観測は、北見工業大学 (2025 年 12 月 15 日)、札幌市東区モエレ沼公園 (2026 年 1 月 27 日) および中札内村 (2026 年 3 月 8 日) で実施した。各地では積雪深、雪質・粒径、密度、硬度および積雪水量を観測した。また、気象庁公開データを用いて、各事例の気象状況も考察した⁵⁾。

3. 観測結果

3. 1 2025 年 12 月北見の大雪

2025 年 12 月 15 日、低気圧の通過に伴い北海

道内の広い範囲で降雪が強まり、各地で大雪となった (札幌管区气象台, 2025)¹⁾。なかでもオホーツク海側では降雪が顕著であり、北見では短期間に積雪深が大きく増加した。観測時の積雪深は 71 cm であり、これは 2025/26 年冬期における最深積雪となった。同日午後に実施した積雪断面観測では、大雪によって形成された高密度の降雪層が明瞭に認められた (図 1)³⁾。当日の雪水比 (日単位) は 0.72 cm/mm であり、比較的密度の高い降雪であった。その後の継続観測では、低温環境下で変態が進行し、シーズン後半には霜系の雪質が発達した (図 2)。過去シーズンと比較する

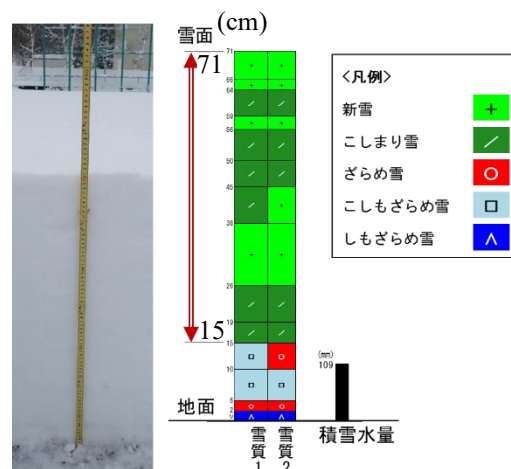


図 1 北見工業大学における積雪断面観測結果 (2025 年 12 月 15 日)。矢印は大雪時の増分。

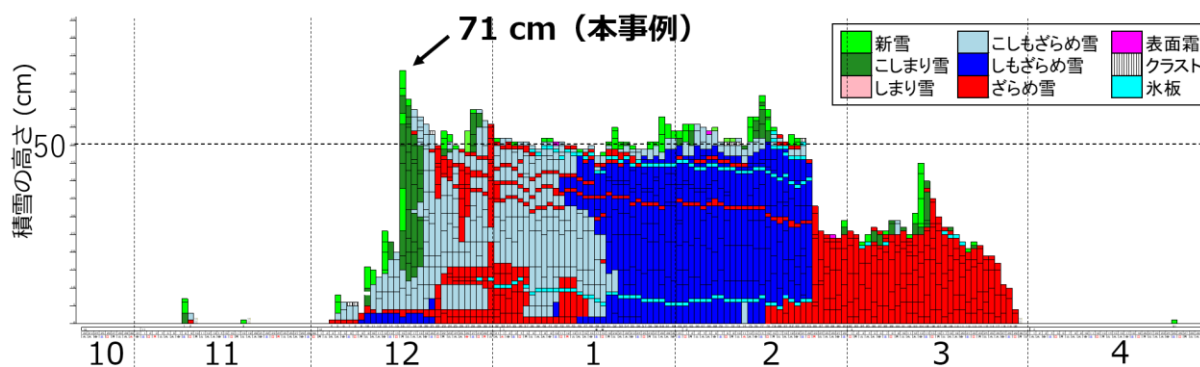


図2 2025/26年冬期における北見工業大学の積雪断面変化図.

と、12月中旬の大雪がそのままシーズン最深積雪となる事例は極めて珍しい。2025/26年冬期は、伊藤（1983）における「初期大雪型」⁶⁾と呼ぶべき特徴的な積雪経過を示した。

3. 2 2026年1月札幌の大雪

2026年1月24～25日にかけて、札幌では24時間降雪量54 cmを観測した。この大雪は、日本海上の小低気圧と寒気の影響により形成された石狩湾収束帯によってもたらされたと考えられている（札幌管区気象台、2026）²⁾。

1月27日に実施した積雪断面観測では、既存積雪上に約50 cmの降雪層が形成され、積雪深は103 cmに達していた（図3）³⁾。新たな降雪層は比較的密度が高く、図中 a、b の層には霰を含んでいる。このことは、短時間にまとまった降雪があったことを示している。

2021/22年冬期（今回同様に札幌が大雪だったシーズン）⁷⁾との比較では、両冬期とも100 cmを超える積雪となったものの、積雪形成過程は大きく異なっていた。2021/22年冬期は平年を上回る積雪状態が長期間継続したが、2025/26年冬期は少雪傾向の中で短期間に積雪が急増する特徴を示していた。

3. 3 2026年3月十勝南部の大雪

2026年3月上旬、十勝南部では局地的な大雪が発生し、中札内でも積雪深が急増した（釧路地方気象台、2026）⁴⁾。3月8日に実施した積雪断面観測では、積雪深78 cmを記録した（図4）。

積雪断面観測では、上部に3月上旬の大雪によって形成された新たな降雪層が認められたものの、積雪全体の構造は北見の事例とよく類似していた。中札内においても、積雪構造および冬期を通じた積雪形成過程は北見と類似してお

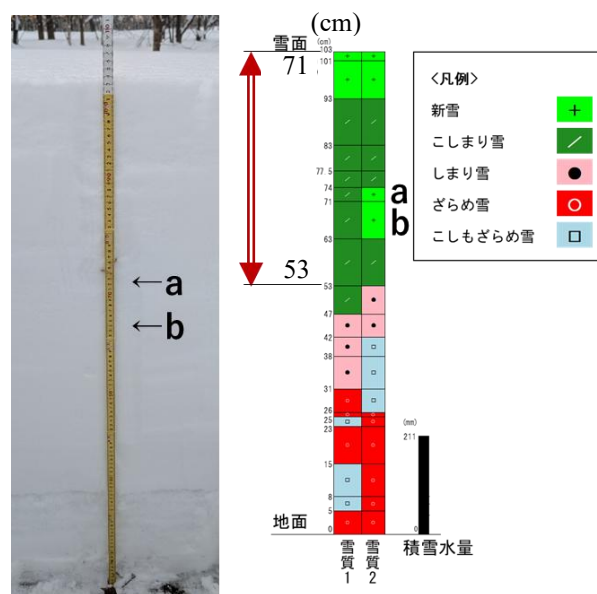


図3 札幌市東区モエレ沼公園における積雪断面観測結果（2026年1月27日）。矢印は大雪時の増分；aおよびbは霰を含む層。

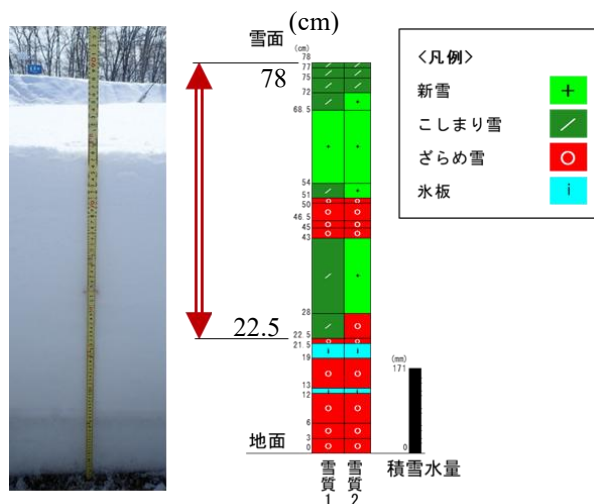


図4 中札内における積雪断面観測結果（2026年3月8日）。矢印は大雪時の増分。

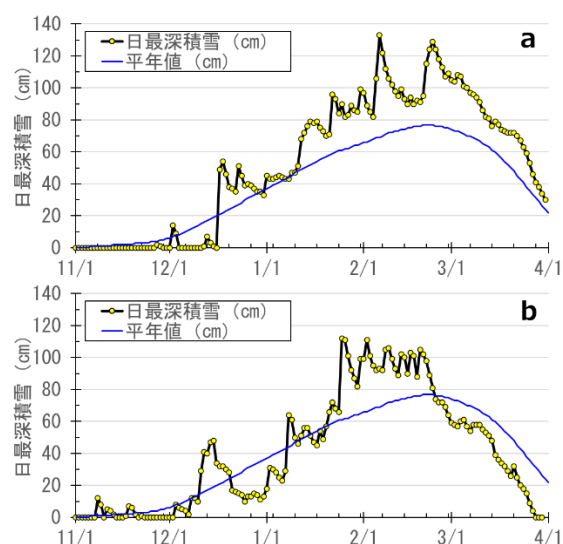


図5 札幌における日最深積雪の推移（図中の青線は平年値を示す）．a；2021/22年冬期，b：2025/26年冬期．

り、本質的には初期大雪型であったと考えられる。ただし、3月上旬に十勝南部を中心とした局地的大雪が発生したため、積雪深は一時的に増加した。

4. 考察

2025/26年冬期は、全道的には少雪傾向で推移したものの、地域によって特徴の異なる大雪イベントが発生した。

北見では、12月15日の大雪がそのままシーズン最深積雪となった。このような積雪初期の大雪が最深積雪となる事例は近年では極めて珍しく、本冬期は特徴的な「初期大雪型」の積雪形成過程を示した。中札内も、積雪構造および冬期を通じた積雪形成過程は北見と類似し、本質的には初期大雪型であったと考えられる。一方、3月上旬に十勝南部を中心とした局地的大雪が発生し、積雪深は一時的に増加した。しかし冬期を通じた積雪形成過程は北見同様、初期大雪型であったと考えられる。

これに対し札幌では、1月下旬の大雪によって既存積雪上に厚い降雪層が形成された。2021/22年冬期との比較からも、2025/26年冬期は平年を上回る積雪状態が長期間継続したのではなく、短期間に積雪が集中するイベント型の積雪形成過程を示していたことが分かった（図5）⁷⁾。

以上より、同じ2025/26年冬期であっても、道東内陸部では初期大雪型、札幌ではイベント型大雪という異なる積雪形成過程が認められた。

5. まとめ

2025/26年冬期は全道的には少雪傾向であったものの、地域ごとに異なる積雪形成過程がみられたことが、本研究の積雪断面観測から明らかとなった。北見では12月中旬の大雪がシーズン最深積雪となる極めて珍しい初期大雪型の積雪形成過程を示した。中札内も基本的には同様の積雪形成過程をたどったが、3月上旬の局地的大雪によって積雪深が一時的に増加した。一方、札幌では1月下旬の大雪によって積雪が急増するイベント型大雪の特徴が認められた。

【謝辞】

本調査は、自然災害研究協議会による「2026年1月の長期寒波による日本海側を中心とした広域雪氷災害に関する調査研究」の一環として実施した。各地の現地観測でお世話になった関係各位に感謝申し上げる。この研究はJSPS科研費（24K07984）および北海道建設技術センター研究助成事業による助成を受け実施した。

【参考文献】

- 1) 札幌管区気象台（2025）：令和7年12月14日から15日にかけての大雪及び暴風雪等に関する気象速報。札幌管区気象台，20pp.
- 2) 札幌管区気象台（2026）：令和8年1月24日から25日の大雪に関する気象速報。札幌管区気象台，8pp.
- 3) 白川龍生（2026）：札幌圏大雪に対する積雪断面観測—都市型大雪の実態把握と防災への展開—。SAFER R&D Report, 6, 46-47.
- 4) 釧路地方気象台（2026）：釧路・根室・十勝地方の農業気象情報 令和8年3月。釧路地方気象台，13pp.
- 5) 気象庁ウェブサイト「過去の気象データ検索」（<https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/>）（閲覧日：2026年6月26日）
- 6) 伊藤 駿（1983）：日本における積雪深の形態分類とその特徴について。雪氷, 45(2), 57-63.
- 7) 白川龍生，尾関俊浩，高橋浩司，細川和彦，大鐘卓哉（2022）：2021-2022年冬期の札幌都市圏における大雪について（その2）—積雪断面観測（札幌都市圏と道央・道東・道北域との比較）—。北海道の雪氷, 41, 9-12.